

明海大学不動産学部

不動産の不思議

第29回

学生たちの視点と発見

【学生の目】

街を少しでも歩くと、無秩序に立てられた形も大きさも不ぞろいな電柱が目に見え、視線を上に向けて、電柱から無数に延びる電線類が道路上に張り巡らされて

っており、街の景観を損なっている。また、歩道に立ち並ぶ電柱は、有効に使える道路幅を狭め、歩行者や車椅子の通行の妨げにもなる。地震や台風などの災害時には電柱の倒壊による事故や救急搬送が遅れるなど、防災性にも問題がある。

日本では電柱の乱立は当たり前前の道に立ち並ぶ電柱は、有効に使える道路幅を狭め、歩行者や車椅子の通行の妨げにもなる。地震や台風などの災害時には電柱の倒壊による事故や救急搬送が遅れるなど、防災性にも問題がある。



垣田 将吾
不動産学部4年

無電柱化による都市の進化

光景になってしまっているが、海外ではそんなことはない。国土交通省のホームページによると、無電柱化はロンドン、パリ、香港では100%、ベルリン99%、シンガポール86%とヨーロッパの主要都市はもとより、アジアの主要都市でも無電柱化が当たり前となっている。そうした中、東京は48%とこれらの先進都市に比べ大きく立ち遅れている。なぜ、日本では無電柱化が進んでいないのか。問題は何だろうか。問題は幾つかある。まず、電柱を立てるのには比べ、地中化には多くの費用がかかる。次に、地震などで地下設備が破損して掘り返し工事が必要とする場合は復旧が遅くなる。更に、避雷の機能がなくなるため、通行人や沿道の建築物への落雷の危険性が増すという問題もあるようだ。

東京での取り組みに期待

電柱を多目的に活用している実態がある。不動産業界には、無電柱化によって、開発や新築に際して費用負担が増加するとの批判的な意見もある。だが、無電柱化には、無電柱化による調査や工事が必要となり、地元住民の理解を得なければならぬ。現状のように認知度や関心度が低い中で理解を得るには時間がかかり、工事も進まない。

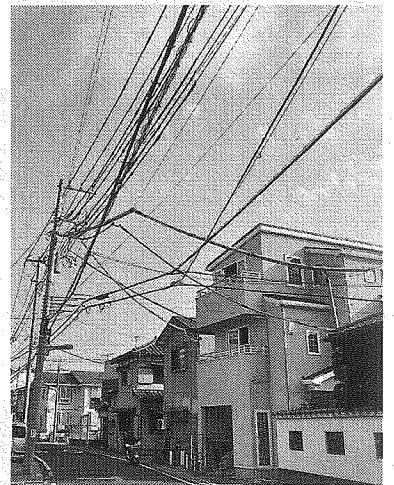
と聞く。

無電柱化にあたっては、電線類を地中に通すために道路や私有地内での調査や工事が必要となり、地元住民の理解を得なければならぬ。現状のように認知度や関心度が低い中で理解を得るには時間がかかり、工事も進まない。

このような状況に対し、東京では20年の東京オリンピックまでに、渋谷や港など19区で国道や都道の無電柱化率を100%に引き上げ、海外に比べ遅れている無電柱化を進め、防災の強化や景観の改善を図る見通しだ。こうした取り組みによって、様々な人が無電柱化という施策とその効果を知り、関心をもつことで無電柱化事業の推進が加速することを期待したい。

【教員のコメント】

日本の便器は国際的に秀逸だ。洗浄・暖房・消臭・消音・節水に加えて自動閉鎖式も増えた。日本人の美風である技術深化力と清潔好きが相乗した成果だ。2つの美風が無電柱化に向かつて都市を進化させる、20年東京五輪をその契機にしたいものだ。



街の景観を損ねている電柱と電線

総合・政策